

釧路市教育委員会 令和7年第17回8月定例会会議録

1 日時：令和7年8月27日（水）13時30分から15時30分まで

2 会場：釧路フィッシャーマンズワーフMOO 2階 教育委員会室

3 出席者

岡部義孝教育長

（教育委員）

山口隆委員、小出美貴子委員、榎山彩子委員、大山稔彦委員

（事務局）

澤口学校教育部長、工藤生涯学習部長、本川教育指導参事、司口学校教育部次長、臺野施設計画主幹、小西学校教育課長、三浦教育政策主幹、渡部給食担当主幹、大島学校指導課長、齊藤総括指導主事、鈴木北陽高等学校長、及川北陽高等学校事務長、曾根美術館長、秋葉博物館長、内海生涯学習課長、竹内スポーツ課長、石川学芸主幹、鈴木動物園長、北村阿寒教育事務所長、長谷地音別教育事務所長

4 議事録署名人 小出委員 榎山委員

5 傍聴人数 0人

6 提出案件

【公開案件】

報告事項

- （1）釧路市教育委員会の保管するアイヌ遺骨等の地域返還について
- （2）令和7年度釧路市子どもミーティングの開催について
- （3）「学びの多様化学校」開設に向けた検討状況について
- （4）第53回釧路湿原マラソンの開催結果について
- （5）学校の現状について

7 会議内容

【公開案件】報告事項

(1) 釧路市教育委員会の保管するアイヌ遺骨等の地域返還について

(秋葉博物館長)

報告事項1、釧路市教育委員会の保管するアイヌ遺骨等の地域返還について報告する。

本件については、昨年2月の釧路市教育委員会定例会において、釧路市教育委員会の所管する博物館において、発掘調査などを通じて収集したアイヌの方々のご遺骨、計10体以上と、刀などの副葬品について、令和5年7月に策定した「釧路市教育委員会の保管するアイヌ遺骨等の取扱方針」に基づき、令和6年1月に釧路アイヌ協会を旧釧路市で発掘・発見されたアイヌ遺骨等の地域返還対象団体として決定したことを報告するとともに、当時、受付中であった反対意見がなければ、阿寒アイヌ協会を旧阿寒町で発掘・発見されたアイヌ遺骨等の地域返還対象団体として決定する方向性について、報告させていただいているので、その後の進捗について、報告させていただく。

前回報告の後、反対意見は無く、令和6年2月に阿寒アイヌ協会を地域返還対象団体として決定し、釧路・阿寒両アイヌ協会と返還に向けた協議を重ね、この度、両協会と合意に至った。明後日8月29日（金）午前10時より、阿寒霊園納骨堂において阿寒アイヌ協会への返還を、10月18日（土）午後2時より、釧路市アイヌ共同納骨堂において釧路アイヌ協会への返還を、それぞれ執り行うこととなった。返還するアイヌ遺骨等については、別紙「釧路市教育委員会が保管するアイヌ遺骨等について」に記載のとおりNo.1から9まで、計9体以上のご遺骨と副葬品を釧路アイヌ協会へ、No.10の1体のご遺骨と副葬品を阿寒アイヌ協会へ、それぞれ返還する。なお、当日は、それぞれのアイヌ協会の主催により、返還されたご遺骨に対する慰霊の儀式などが執り行われる。

◎この報告について、各委員からの発言はなし

【公開案件】報告事項

(2) 令和7年度釧路市子どもミーティングの開催について

(齊藤総括指導主事)

報告事項2、令和7年度釧路市子どもミーティングの開催について報告する。

今年度の「釧路市子どもミーティング」は、令和7年9月6日（土）に、釧路市生涯学習センターまなぼと幣舞を会場に実施するものである。本事業の目的として、各校区の子どもたちが主体的に考案した「地域活性化プラン」を共有・検討し、多様な視点を取り入れながら、実践的なアドバイスを得ることで、子どもたちの地域課題解決能力と社会参画意識を育み、地域活性化への具体的な一歩を踏み出す機会とするものである。今年度のテーマは「校

区の地域を活性化させるために「～私たちにできること～」である。市内各中学校・義務教育学校の生徒会役員と、小学校の児童会役員が事前に協力して考えた中学校区における「校区活性化プラン」を発表した後、各グループ内において、プランの改善点や実行するために必要なことについて具体的なディスカッションを行う。ディスカッションでは、5つのグループに分かれて行い、進行役として各グループに1名ずつ、釧路北陽高等学校の生徒会7名が担当することとなっている。さらに、釧路青年会議所のメンバー5名にもアドバイザーとして参加いただき、中学校区で考えた校区活性化プランについて、実現の可能性やより良い方法など、地域の活性化に携わった大人の知識・経験から助言をいただく時間を設けている。子どもミーティング終了後は、それぞれのグループで協議した内容を、中学校区に持ち帰り、再度、中学校の生徒会役員がリーダーシップをとり、小学校の児童会役員と実現に向けた具体的な取組を実行していく形となる。

ここで大切にしたいことは、自分たちで考えたアイデアを実現させるために、様々な人たちの協力を得ながら、自分たちの力で実行に移していく行動力である。こうした取組を継続していくことで、「自分たちで変えることができた」「保護者や先生、地域の人たちも認めてくれた」というように、子どもたち一人一人の自己肯定感が高まることにつながり、強い社会参画意識を醸成するものであると考えている。

◎この報告について、各委員からの次のとおり発言あり

(山口委員)

まずは児童生徒健全育成標語入選者表彰式を後半に行うよう変更するのは良いことであると思う。例年、先に行ってしまうと、引率で来られている保護者も学校の先生もここで帰ってしまうので、後半に変更したことは良いことだと思う。次に説明の中で子どもたちによる地域への参画意識として参画という言葉が使われていたが、参画が非常に大切なことである。参加と参画では意識の醸成が変わってくると思うので、今後はどのようにして子どもたちに行事や取組に参画させていくかという意識を大事にしながら計画していただければと思う。

(齊藤総括指導主事)

参画ということを大事にしている。行事に参加するだけでなく、自分たちでしっかりと計画を立てながら、自分たちで出来ることを実行するということの積み重ねが子どもたちの力を育んでいくと思うので、大事にしていきたいと思う。

(大山委員)

子どもたちが学校で話し合ったことを持ち寄り、また返していくという方法は大変良いと思う。大事なことはこの会議が終わった後に、計画したことを1つでも良いから実現することだと思う。各学校にも協力をお願いしたい。

(靱山委員)

以前参加した際には、中学生が高校生の姿に憧れを持つ様子が見られた。以前はグループ進行が指導主事だったと思うが、今回は高校生が進行するということで、一層子どもたちが

参画することができるものと感じている。

(小出委員)

参加する子どもたちは事前にこのテーマについて考える機会を学校で設けられているのか。

(齊藤総括指導主事)

既に中学校区を中心にオンラインでつなげながら考える機会を設け、協議している。

(小出委員)

その子たちがオンラインではなく、実際に会って話し合う機会がこの場ということか。

(齊藤総括指導主事)

その通りである。例えば鳥取中学校区へ行くと昭和小学校、鳥取小学校及び新陽小学校の児童会と、鳥取中学校の生徒会がお互いの取組について紹介し合い、情報共有を行っていた。その中で鳥取中学校区において、同じことを実施できないかということを探ることになった。子どもたちの話の中では、挨拶運動はどの学校も実施していることから、同じ日程で実施できるかもしれないという意見が中学校から出てきており、中学校区を中心にしながら内容を決定していくところである。同様にそれぞれの中学校区が中身を子どもミーティングに持ち寄ってくるので、お互いに意見交換を実施しながら、J Cの方々よりアドバイスをいただき、磨きをかけていくイメージである。

【公開案件】 報告事項

(3) 「学びの多様化学校」 開設に向けた検討状況について

(大島学校指導課長)

報告事項3、「学びの多様化学校」開設に向けた検討状況について報告する。

7月31日に第2回学びの多様化学校検討委員会を開催した。検討委員会では、「スクールビジョン」「学校名」「新設教科」「学校生活」「登校時間」について、委員の皆様と協議いただいた。スクールビジョンについては、別室登校や不登校傾向にある中学生数名に「どのような学校なら通ってみたいか」という聞き取りをし、その中では「少人数で学びたい」「校則や委員会はない方がいい」「学習や進路は気になっている」という意見をいただき、そういう意見から「自分らしく」と「安心して」というキーワードで、最終的には事務局案として「自分らしく安心して通える学校」ということで、検討委員会の中で示している。この事務局案に対して、委員の皆様から「学校」という言葉よりも「居場所」という言葉にすることでハードルを下げた方がいいという意見をいただき、検討委員会の中で最終的には「自分らしく安心して過ごせる場」ということに決定し学校名については、明日8月28日に3回目の学びの多様化学校検討委員会を開催する予定となっており、その中で決定をいただく予定となっている。

新設教科については、ひとつ目は「ふるさと探究」という名称にし、様々な釧路の魅力を活かした体験活動を通じて自己肯定感を高め、社会的自立を促していくこと。ふたつ目の教科として「ソーシャルの時間」とし、コミュニケーション能力と自己管理能力を高めるた

めのトレーニングを行う教科であることを説明した。委員からは、授業内容としてはおおむね理解をいただく中で、「ふるさと探究」の教科名については、ふるさとに限定することで入り口が狭く感じるというご意見もあり、3回目にあらかじめ名称を提案することとしている。

学校生活について、服装から部活動までについては本来校長の権限で決めることができるものだが、今回は開校する前に募集をするということになるので、募集にあたり説明が必要な事項については、事前に教育委員会のほうで方向性を決めて、検討委員会でも記載のとおり説明させていただいている。

給食については、他の学校と同様に提供する旨説明し、委員からは、給食が苦手な子や、においに敏感な子への配慮の意見があり、これまでの学校でも対応している内容であり、同様に対応する旨を回答している。

登下校時間については、第1回の検討委員会で9時00分ということで説明していたが、バス通学における自分の学区の生徒と接触するのではないかと意見をいただいたので、バスの便や中央小学校と休み時間等を合わせるなど学校生活面をもとに再検討し、9時15分で提案をし、了承をいただいた。なお、先ほども言ったが明日3回目の検討委員会がある。その内容を踏まえて、9月の議会、総務文教委員会にも報告していきたいと考えている。

◎この説明について、各委員からの次のとおり発言あり

(山口委員)

こういった形の学校が開校されるのかという結果が重要であるが、検討委員会で話し合われた経過を把握しておくことも大切だと思う。北中学校の管轄でスタートすることになるが、新年度の北中学校長がこれまでの経緯を踏まえ、学びの多様化学校に対してこういった認識を持ち、こういった学校経営案を描けるかという点が大変重要になってくる。現在の北中学校長にはしっかりと開校前の経過も踏まえてもらいながら、引継ぎができるようにしていただきたい。

(大島学校指導課長)

現在の北中学校長にも、しっかりと我々が行ってきていることを伝えながら進めていきたいと思っている。

(大山委員)

個人的なイメージであるが、教室の中には生徒が4から5名おり、先生の後ろには大きなテレビがあり、そこにオンラインで参加している生徒が5から6名いるといった環境の中で授業や活動が進められるのではないかと考えている。通えることを前提とせず、参加できる形態は様々あることから、広く捉えていただければと思っている。

(大島学校指導課長)

子どもたちのそれぞれの状況をしっかりと鑑みて、適切な場所を用意していきたいと思っている。

(岡部教育長)

先週、都市教委連という全道３５市の教育長と教育委員が集まる会議があった。そこで多くの教育長にこの学びの多様な学校について質問されたことから、全道的に関心を持たれていると実感している。令和８年度の開校に向けて、しっかりと進めていかなければならないと思っているところである。

【公開案件】報告事項

（４）第５３回釧路湿原マラソンの開催結果について

（竹内スポーツ課長）

報告事項４、第５３回釧路湿原マラソンの開催結果について報告する。

７月２７日（日）に第５３回釧路湿原マラソン大会が開催された。参加申込者数については２，７８１名、参加者数については２，５５１名であった。参加者総数は、道内・道外からの参加申込数がコロナ前と同程度まで回復するなど、前回大会を上回る結果となったが、３キロ親子マラソン等、小学生の参加競技への申込が減少となっており、引き続き周知方法を工夫するなどの取り組みに努めてまいりたいと考えている。

大会当日の気温については、最高気温１８．８度と、走りやすい気温となったものの、雨が降るあいにくの空模様となり、３０キロマラソンの完走率は９４．３％と、前回大会を若干下回る結果となった。大会当日における救護手当の状況については、１７件の救護対応があり、そのうち救急搬送者が２名いたが、１名は当日帰宅、１名は手術、リハビリのための入院となっている。

ゲストランナーについては、２年ぶり１１回目の参加となる川内優輝選手のほか、Ｃｏｏ１釧路市観光大使である、釧路市出身のタレント、小坂田純奈さんに参加いただき、大会を盛り上げていただいた。

また、本事業の実施にあたって、８０３名のボランティアの方々に大会運営のスタッフ等として格別のご協力をいただいたことに、改めて感謝を申し上げるとともに、今後とも、釧路湿原マラソンが市民はもとより、全国各地から多くの方々に参加いただける、まちの活性化にもつながるスポーツイベントとして発展するよう、さらに運営面などの充実に努めてまいりたいと考えている。

◎この報告について、各委員からの次のとおり発言あり

（榎山委員）

当日は大雨の中、準備から関わっていただいた皆様は本当に大変だったと思う。私も関わっているスポーツクラブからボランティアを出し、親子競技に参加させていただいていた関係からも応援に伺った。ランナーにとっては暑い状況より、雨で良かったかもしれないという声も聞き、また小学生が本当に良い表情でゴールをしている姿を見ると学校だけでは味わえない、達成感を感じられる大きなイベントだと感じた。本当にたくさんの協力の中で開催

頂いたことに感謝している。

【公開案件】報告事項

(5) 学校の現状について

(本川教育指導参事)

報告事項5、学校の現状について報告する。

30日間の夏休みが一昨日終了し、8月25日から2学期が始まった。幸い夏休み中に、子どもたちの交通事故をはじめとする大きな事故も起きていなかったと聞いている。今年の夏は昨年よりも暑い日が多かったように感じているが、朝晩は大分涼しくなってきたが、日中は暑い日がもう少し続くことが予想される。引き続き熱中症予防対策を含めた暑さ対策を怠らずに、子どもたち及び教職員の健康管理に十分留意するよう各学校に周知した。

また、例年、夏休み明けの9月から10月にかけては、全国的に小・中・高校生の自殺が急増する傾向が見られる時期と言われている。不登校や登校渋り傾向が多くなるのもこの夏休み明けが多いとデータで言われている。文部科学省によると、2023年の小中高生の自殺者数は全国で513人と過去2番目に多く、そのうち9月が1割にあたる54人、10月が1割強の61人と、やはりこの時期が特に多いというデータが発表されている。子どもの自殺は近年増えており、いじめと同様にどこでも起こり得ることであることから、特に子どもたちの様子の変化には敏感になるように、また、子どものみならず教職員の変化にも敏感になって、子どもや教職員が発するSOSを見逃すことなく、敏感にキャッチし、違和感を感じ取るように改めて校長会議にて周知・啓発をおこなったところである。

7月30日に津波警報が発令され、やがて避難指示の発令もあった。多くの学校に地域住民の皆さんが避難してきた。多いところでは約500人、300人という市民が学校に避難してきて、多少の混乱はあったものの、先生方の協力もあって何とか大過なく対応できたところである。そのような中で複数の市民の方々から、近くの学校に避難したが先生方が親切に対応してくれて安心できた、という趣旨の言葉をいただくことができた。避難所に関するアンケートをとったところ、今回の避難所開設に伴う課題も多く出てきており、これについては防災危機管理課とも共有しているので、今後の解決策に活かして参りたいと期待している。

全国学力・学習状況調査の結果が夏休みに各学校に示された。今回は中学校理科が端末を用いたCBT方式で実施されたため、結果についてもこれまでとは違うIRTスコア・IRTバンドという形式で示された。また、これまでも行なっているが、この結果を受けて教頭先生と学力担当者が来庁して学校別に行なう学力向上プランの協議Iを9月16日から順次学校ごとに実施する。今回は学力向上プランの協議に先立って、特に課題が見られる学校の校長先生においては別途先にお越しいただき、実態の聞き取り、あるいは市教委からのメッセージを直接伝えるなど、そういう取組みを今回実施してきた。初任1年目の先生方を対象とした研修講座を8月1日に市教委独自で行い、その中で私も1時間ほどの講話をしたが、初

任の先生方はいろいろな悩みを抱えており、あるいは感想をいろいろと伺っていたので、その一部を信頼に掲載している。改めて各校長先生方には初任者はもとより、自校の先生方への関わりや目配り等について積極的に管理職から行うようお願いしたところである。

◎この報告について、各委員からの次のとおり発言あり

(山口委員)

昨日、保護観察所で保護司選考委員会という会議が持たれ、私も参加させていただいたが、そのときに保護観察所の所長から鑑別所の収容状況や刑務所への入所状況の説明があった。その中で、去年から今年にかけて一気に9名程度入所したという説明があった。幸いその中に釧路市の子どもたちは含まれていなかったが、少年の大麻による事案で少年鑑別所に入所する子どもが増えつつあるという話を聞いたので、学校への情報提供や啓発をお願いしたい。

(岡部教育長)

薬物研修はすでに行っているところである。

(齊藤総括指導主事)

学校ごとに必ず行っている。

(小出委員)

7月30日の学校が避難所になった件について、各学校に市民の方がたくさん避難されて先生たちが大変だったという話を聞いている。指定避難所になった学校に市の職員が来る前に、市民の方がたくさん来られたので、先生たちがその対応と、学習会で来ていた子どもたちの対応を行っていたとのことである。また指定避難所にならなかった学校においては市の職員が来ないということになっていることから、学校の先生たちが避難してきた方の対応を行うといったことが起きているかと思う。アンケートを実施したとのことだが、市教委にてアンケートを実施したのか。

(本川教育指導参事)

防災危機管理課から各学校に対してのお礼と、課題があったら出してほしいという要望があり、アンケートをとった。我々も実態を知りたいので、連携してとった結果を防災危機管理課に渡している。

(小出委員)

先生生たちは避難所開設の知識がないことから、ペットを連れてきた方たちをどこに避難させるかなど具体的な問題がアンケートで上がってきていると思う。よって避難所開設の考え方等マニュアルづくりを早急に進めていく必要があるかと思う。

(澤口学校教育部長)

学校だけではなく、全庁的に施設を持っているところと防災担当が協議し、早急に整理することになっていくと思うので、学校だけではなく、全庁的に整理していく予定である。避難所に当たっていない学校は基本的には避難の人が来ないことになっているので、その辺は市民への周知等を徹底していかなくてはならないところである。

(山口委員)

今回、反省点が釧路市全体として残った。幸い人命に関わる大きな事故はなく終わったが、今後は市民が混乱せず、皆の命が守られる体制を全庁的に確保し、釧路市全体で今回のケースを教訓として生かしていただきたいと思う。私自身もまず起きたときには、すぐに動かなければならないと教訓となったことから、釧路市民全員が何らかの課題が残ったのではないかなと思うので、よろしくお願ひしたい。

(岡部教育長)

釧路市として山ほど課題が残った今回の津波警報である。津波にも幾つか区分があるが、津波警報発令の際に、自分はどこへ逃げるのか、逃げる必要はあるのか、それが全く届いていなかったという現実を突きつけられた。今回、逃げる必要がない人まで逃げている。学校の先生方においても、来た人たちに対して正しい避難情報を説明することができればよかったのだが、それができていなかったのが今回の大混乱の要因であり、大津波警報になると避難場所が変わることもあるため、その辺りの周知対策を防災担当は考えていかなければならない。

(山口委員)

５００名が来たという学校は具体的にどこか。

(齊藤総括指導主事)

鶴野小学校である。

(本川教育指導参事)

鶴野小学校に５００名が来られたということについて、今回は昼間の夏休み期間中であり、小学校に来ていた子どもたちは、学習サポートや同好会活動を行う児童というあくまで一部であったことから対応が可能であったが、例えば通常時の多くの子どもたちがいる学校の中に市民が避難してきたときに、物理的にどこに入るのだろうかというのは、学校現場から今回のアンケートでも出ており、校長会でも話題となっていた。具体策についてはすぐ出ないと思われるが、そういった懸念も防災危機管理課には伝えている。

(岡部教育長)

避難所にも幾つか位置付けがある。一時的に避難するということであれば、大きな問題ではないが、何週間も続いていくような避難所ということであれば、しっかりと体制を整えていく必要があるものである。